

旭区
運営方針

子育て世代をはじめ多くの方々に 選ばれ続ける「ふるさと旭」の実現へ

～令和2年度の旭区の取組を紹介します～

旭区は、地域の皆さんに支えられ、昨年、誕生50周年を迎えました。
相鉄線が都心に直通し、旧上瀬谷通信施設のまちづくりや国際園芸博覧会開催に向けた取組など、旭区は今、未来に向けて変化の時期を迎えています。
この動きを捉えながら、50周年記念事業を通して再認識した旭区の魅力・財産をさらに高めていきます。また、様々な地域課題に取り組む団体や企業などパートナーとの連携や、旭区のライフスタイルの発信により、多くの方々に選ばれ続ける「ふるさと旭」の実現を目指します。

現在の新型コロナウイルス感染症による厳しい状況を踏まえ、
将来を見据えたまちづくりを進めながらも、区民の皆さんの安全・
安心を最優先とした対応を図ります。事業の実施にあたっては、感
染拡大の状況などを見極めながら柔軟に対応してまいります。

主な取組は次のページで紹介しています



「未来を創る
まちづくり」

- 旧上瀬谷通信施設のまちづくり
- 2027年国際園芸博覧会開催に向けた取組

公園内の万騎が原ちびっこ動物園



こども自然公園

こども自然公園

- 公園における公民連携の取組
- こども自然公園における新たな魅力・にぎわいの創出に向けて、公園の将来像を示す「パークマネジメントプラン」を策定



知っていますか

エスディーゼイズ (持続可能な開発目標)
SDGs について

SDGsの17の目標▶

SDGs(Sustainable(サスティナブル) Development(デベロップメント) Goals(ゴールズ))は、「国連持続可能な開発サミット」で採択された、2030年までの達成目標です。「誰一人取り残さない」を基本理念とし、経済・社会・環境の3側面をつなぐ統合的取組に重点を置き、幅広い関係者の連携を重視しています。
旭区も、多様なパートナーとともに複合課題の解決に挑戦しています。



まちづくりが進むと
旭区の魅力もますます
高まりそうだね!

安心・健やかな暮らしの推進

主な取組
1

●安全で安心して暮らせるまち



昨今の自然災害を踏まえた
災害対応力の向上



防災・防犯・交通安全が一体となった
まちづくり

●誰もが健康でしあわせな生活を送れるまち



身近な地域の支え合いの仕組みづくり



ウォーキングの推進をはじめとした
あらゆる世代の健康応援

魅力発信、水・緑・花・スポーツ・文化による つながりづくりを推進

主な取組
2

●旭区の魅力や可能性を生かした転入促進プロモーションを推進

50周年記念事業を通して再認識した魅力・財産の活用、沿線区や鉄道事業者などとの連携を通じて、旭区のライフスタイルを主に子育て世代に向けて発信し、定住人口獲得を目指します。

●誰もが参加できるスポーツ活動や文化活動の支援

あさひポッチャをはじめ、様々なスポーツを通じ、地域のつながりを強めるとともに、文化芸術活動を支援します。

●国際園芸博覧会開催に向けた機運醸成



希望が丘東地区



川井地区



希望が丘南地区

「SDGs未来都市・横浜」郊外部モデルの創造

主な取組
3

●多様なパートナーシップにより地域課題解決へのチャレンジを加速

大規模団地において、SDGsの視点を取り入れた未来に向けたまちづくりの持続化を目指します。また、SDGsを目標に掲げて地域活動する団体を支援するとともに、団体と協力した広報を行い、地域におけるSDGsの理念の浸透を図ります。



オンデマンドバス ～若葉台団地～

快適な移動手段の充実に向けた取組で、利用者はスマートフォンのアプリで発着地を選択し、希望時刻を決めて送信します。時刻表や既定のルートがなく、利用者の予約に応じて回るため、効率的な公共交通として注目されています。



コミュニティカフェ
～希望が丘地区「ブルーベル」～

家庭的な雰囲気、高齢者や子育て世代、障害のある人、その支援者などが気兼ねなく利用でき、地域交流の場になっています。
※旭区きらっとあさひ地域支援補助金SDGs取組枠を活用した事例

コラム

課題に向き合う

移動スーパー誘致の

取組



長く住み続けられるように 地域が考えるまちづくり

旭区では、スーパーの閉店などで家の近くに店がなくなったことや、山坂が多いことなどから、買い物に困難を感じている人への対応が課題となっていました。こうした中、地域が主体となって地域ケアプラザ、地区社会福祉協議会、区役所などと検討を重ね、移動スーパーの誘致に結び付けています。今では、区内3地区で同様の取組が展開されています。

身近な場所で買い物ができる手段として、ますます需要が高まるとともに、利用者の見守りにもつながるなど、地域の大切な取組となっています。

実施にあたっては、アルコール消毒液の設置や利用者同士の間隔を確保するよう呼びかけるなどして、感染症対策に留意しています。